

医療のかた 日本を支え続ける

災害が発生したとき、命を支える医療の役割は、より緊急性を増します。

6年前に構想を発表した日本医師会の災害医療チームJMATは、緊急事態が起きた際、全国から医療スタッフを集めて投入する目的がありました。

そして5年前の3月11日、あの大震災が発生したのです。

日本医師会では直ちに災害対策本部を設置し、4日後にはまだ構想段階だったJMATの正式結成と派遣を決定。被災地域を除く都道府県医師会に協力を要請しました。

当初の4か月間、被災地の災害医療に専心したJMATは1,398チーム、それ以降、災害関連死などを防ぐための息の長い活動を続けてきたJMAT IIも1,300チームを超えます。

災害は、いつどこで発生するか分かりません。日本医師会では、現地の状況把握を的確かつ速やかに行うため、宇宙航空研究開発機構（JAXA）と2013年に協定を締結、超高速インターネット通信衛星「きずな」を活用する体制を構築しました。

また、あらゆる被災地や避難所に適正・公平に支援を行うため、医師をはじめ、歯科医師、薬剤師、看護職員など医療に携わるすべての関係団体で組織する被災者健康支援連絡協議会を設立し、中長期的な医療支援を見据えたコーディネートと連携体制を築いています。

あの日から5年。

日本医師会は、これからもいざという時に頼りになる存在として機能できるよう準備を進めていくとともに、地域医療の充実にも努め、すべての国民が必要とする医療提供体制の実現に努めてまいります。



日本医師会 会長

横倉義武

日本医師会災害医療チームJMAT（ジェイマット）

JMATは、全国から集まった医師、薬剤師、看護職員、事務職員などにより結成する医師会の災害医療チームです。東日本大震災では、2,700を超えるチームが、岩手県・宮城県・福島県などの避難所での診療や、精神的なケアを含めた医療支援、地域医療の復興に携わりました。

